

アッケシソウ点景



初夏に伸びる



早春の芽生え



黄色いアッケシソウ



紅に燃える

アッケシソウ通信

第3号

平成25年10月



アッケシランド遠景



新自生地と岡山理科大生



少年スポーツクラブ

「アツケシソウ通信」第三号 よせて

浅口市長 栗山康彦

爽やかな秋風が吹き、潮騒や鳥のさえずりが聞こえる寄島干拓地内を絨毯のように真っ赤に彩り、訪れる人々を魅了するアツケシソウ。

その自生地の面積が年々広まり、知名度や関心の高まりとともに、「寄島アツケシソウ」に年間一万人を超える方々が訪れてくださるのも、アツケシソウを守る会の会員の皆様の熱心なご努力の賜物と存じます。

来訪者の方々へのアツケシソウについての丁寧な説明をはじめ、年に三回地域の子ども達とともに行われている草刈りや、岡山理科大学星野先生との共同研究など、アツケシソウ保存のために様々な対策を講じてくださり、感謝申し上げます。

絶滅危惧Ⅱ類に指定されているアツケシソウは、その生態や好ましい生育環境については現在研究中であり、保護育成のための有益な情報も多くはなく、自然界の脅威にさらされるなか、手探りでの保護活動に今後とも大変な部分も多いと存じます。しかしながら、会員の皆様のご尽力により、アツケシソウに対する関心も高まり、若手会員の増加など、みんなで守っていくという気運も年々増し、非常に喜ばしいことと感じております。本州唯一の自生地である寄島干拓地内

浅口市寄島アツケシソウを守る会 設立一〇周年を迎えて

—あさくち未来デッサンへの取り組み—

会長 作田雅利

平成十六年に発足した寄島アツケシソウを守る会は、平成二十六年に設立一〇周年を迎えることになりました。発足当初の数年は、純粹にアツケシソウの生育調査、生態観察、生育環境整備等、特に日本でも生育地が珍しく、専門家による研究文献類のほとんどないアツケシソウの基礎的な調査研究に重点を置いて活動を進めてまいりました。その研究記録は、会員の貴重な活動成果として設立五周年の記念誌に詳しく掲載しています。

守る会も、発足後数年を経過した平成二十年・二十一年には、生育も順調に進み自生地も予想外に広がり、紅葉期の素晴らしい景観が岡山県の景観百選に選ばれたり、守る会の活動が高く評価され、岡山県民俗文化大賞受賞の荣誉に輝くという快挙を成し遂げ、マスコミに大きく取り上げられるにつれて見学者も大幅に増加し、近年では、紅葉期のわずか一ヶ月間に、一万人を超える人たちが来園され、

のアツケシソウが、これからも育成範囲を広げ、多くの皆様に愛されますことを祈念し、「アツケシソウ通信」第三号発行のお祝いの言葉といたします。

次第に市内のみならず県内有数の観光地として認められるようになってまいりました。

このように自生地の魅力が、絶滅危惧種に指定されている希少植物の保護保存にとどまらず、次第に観光的価値が重要視されるにつれて、守る会の中でも会の設立理念やアツケシソウの将来構想について、どうあるべきかの議論が高まり、アツケシソウと命名した以上、秋の一時期だけに見学者が訪れる状態に放置するのではなく、年間を通じて市民を中心に、広く外来者の訪れる海浜公園として整備し、より質の高い魅力づくりをすべきではないかという意見が強くなったのであります。

今回、平成二十六年に設立一〇周年を迎えるにあたり、浅口市の企画する「あさくち未来デッサン」に応募し、一〇周年記念プレ事業として、アツケシソウの未来構想を広く市内外に発信し、より一層の普及啓発を図りたいと考えたのであります。

事業の概要は、大きく分けて三事業となっており、その第一は海浜公園に相応しいフラワーロードづくりであります。東の駐車場からアツケシソウへの入口を起点として直線道路の両側に浜木綿（ハマユウ）とハマナス（ハマナシ）を栽植してフラワー道路を作ろうというものです。ヒガンバナ科の浜木綿は、七月から



ハマユウの植え付け

九月に開花し、大輪の白花（紅花もある）が美しい景観を作ります。バラ科のハマナスは、四月から七月に開花し、そのあと結実して直径二センチぐらいの黄色い果実が実り、これもまた美しい景観を作ると考えています。季節の花あふれるフラワー道路が完成すれば、浅口市が開発中のトレッキングコースの一つとして、「青佐山城址からお台場を通りアツケシソウランド、三ツ山、三郎園地」を巡る夢のコースが実現し、市民の期待に応えることができると考えています。

今一つは、紅葉期を中心に年間を通して撮影した作品を募集するフォトコンテスト及び、市内の小学五年生を対象とした写生大会を開催し、その作品のコンテストを行うものです。特に写真コンテストにつきましては、愛好家の物語にあふれた感動的場面の素晴らしい切り取りを期待しており、また写生大会の作品につ



ハマユウの淮水作業

きましても、小学生のみずみずしい目線や思い切った発想による夢あふれる写生画が寄せられるものと期待しており、寄せられた作品はすべて大切に保存し、守る会の貴重な宝物として長く適切に活用させていきたいと思います。詳細につきましては、浅口市の広報誌・募集要項チラシ・テレビ等を通して募集を開始していますので、多くのご応募をお願いいたします。第三は、現地講演会です。岡山理科大学教授・理学博士の星野卓二先生をお招きして、自生地を前にしてアッケシソウについての講演をお願いするものです。

守る会としましては、市当局の力強いご支援のもと、関係者の方々のご支援を頂きながら、会員一同一致協力して目的の達成に努めて行きたいと考えていますので引き続きご指導ご鞭撻頂きますようお願い申し上げます。

ガの食害でアッケシソウが大量枯死した自生地。枯れた個体を除去したため土がむき出しになっている。2013年9月18日、寄島干拓地



赤く色づいたアッケシソウ。2012年10月、寄島干拓地

絶滅危惧種 of 海浜植物

アッケシソウ大量枯死

絶滅危惧種 of 海浜植物アッケシソウが浅口市寄島町の自生地、寄島干拓地で今夏、ガの食害によって大量に枯死していたことが分かった。岡山理科大学の星野卓二教授（植物系統進化学）によると、このガは国内では初確認という。

（寺尾彰啓）

■ 浅口・寄島干拓地 ■

被害を受けたのは観賞エリアになっている最も大きな群生地（20㍎）。地元のアッケシソウを守る会（作田雅利会長）によると、7月に会員が一部の変色を発見。先端から黒褐色の幼虫が出てきた。8月には幼虫が大量発生し、被害が拡大。薬剤を散布したが、枯死を食い止めることはできなかったという。

星野教授は、幼虫を採取して調査。鹿児島農学部（農学）の坂巻祥孝准教授（害虫学）が国内で初めて見つかったガと確認した。



国内で初確認されたアッケシソウを食べるガ（星野卓二教授提供）

ガの食害 国内初確認

ズーム アッケシソウアカザ科の一年草。秋になると真っ赤に色づく。環境省のレッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。塩湿地で育ち草丈10〜40㍎。欧州や北米、アジアに分布し、国内では北海道や瀬戸内海沿岸に限られている。寄島干拓地の自生地は浅口市の天然記念物に指定されている。

坂巻准教授は近く関係学会で報告する予定。守る会は枯死したアッケシソウを除去。恒例の「アッケシソウ祭り」は10月28日、予定通り開き、被害を免れた干拓地内の別の群生地（3㍎）を公開、フォトコンテストや写生大会などを行う。

同干拓地のアッケシソウは2003年に地元住民が発見した。作田会長は「星野教授らと協力し、来年には少しでも元の自生地の姿を取り戻したい」と話している。

「守る会」研修旅行

アッケシソウの ルーツを訪ねて

岡 辺 敬 子

昨年九月二十四日、一行九名はアッケシソウのルーツを訪ねて、空路韓国に旅立つ。機内から外をながめていると、空港が近づくにつれ、海岸線がしだいに赤く見えてきた。アッケシソウだ!!と思いをこらして見ていると、それはシチメンソウの群生であった。

仁川空港に到着し、入国手続を終え出口に向くと、現地ガイドの「朴」さんが流暢な日本語で迎えてくれた。朴さんは三十歳位の素敵な女性で私は安堵した。

早速昼食をすませマイクロバスに乗り京畿湾一带を回り見学するが、アッケシソウは全く見られず、三回の台風に流されて全てがシチメンソウの群生であった。朴さんは「韓国では若芽の頃に摘みサ

ラダ等で食べるんですよ。」と話される。朴さんはガイドをされるにあたり、アッケシソウについて大変勉強されており感心する。ちなみに韓国語ではアッケシソウを「ハムチョ」と言うそうだ。

その後アッケシソウを商う店に案内され、植木鉢で育てられてい



鉢植えのアッケシソウ



薬用販売の粉

るアッケシソウを見学する。草丈も五十センチ位もあり、枝の分枝状態も寄島のものとは異って見え、私には同種のものとは思えなかった。

店では粉末にしたアッケシソウが販売されており、店主のご好意でアッケシ茶の馳走になった。アッケシソウの韓国事情をいろいろ聞き、店を後にホテルに入る。

二日目はソウルに移り昌徳宮、動植物園等の見学をし、南大門市場に行く。

三日目は国境線観光へ。道路脇の有刺鉄線、兵士の監視小屋等異様な光景が続き、韓国北限のオドゥサン展望台に到着し、北朝鮮展示館を見学。今なお分断された朝鮮事情にふれ、複雑な思いであった。

今回の旅では、自生のアッケシソウを見学できず残念だったが、韓国に於けるアッケシソウの実情、文化の違いを実感した旅でもあった。機会があれば今度は自然の状態のものが見たいものだ。

「守る会」十周年記念コンテスト

写真・写生大募集

〈写真の部〉

一、応募規定

- ・アマチュアの方の未発表作品。
- ・四ツ切・ワイド四ツ切のカラー写真
- ・応募は一人二点まで。
- ・応募締切は平成二十六年三月五日（水）

二、応募方法と応募先

- ・サンパレアに直接持参か、郵送で次までお送り下さい。
- 〒七一四〇一〇一
- 浅口市寄島町一六〇九一―二三
- サンパレア内 アッケシソウを守る
- 会事務局 写真コンテスト係
- ☎〇八六五―五四―三二一〇

三、優秀作品は後日表彰（副賞）・展示

※応募作品はお返し致しません。また、入賞作品の版權及び、著作権は、守る会に帰属致します。

四、表彰

最優秀賞・優秀賞・特別賞（市長賞・議長賞・会長賞）各一点入選四点。

〈写生の部〉

一、アッケシソウ写生大会開催

- ・日時 平成二十五年十月十九日（土）九時～十二時。（雨天の場合は翌日）
- ・参加対象 浅口市内の小学校五年生
- ・用意 絵具セット・クレパス等

※参加者全員に四ツ切画用紙を配布。

受付で受け取って下さい。水はペットボトルなどで持参して下さい。

・作品応募締切は、平成二十五年十二月二十二日

二、優秀作品の表彰

・最優秀賞・優秀賞・特別賞（市長賞・議長賞・会長賞）各一点。佳作四点

守る会 会員大募集!

貴方のご参加を待っています

現在、守る会会員は一二〇名。熱心な会員のご支援ご協力によって、大切に保護育成されています。

①年間会費は五百円で、会の運営費に充当致します。

②年三回（四月・六月・九月）の草刈り作業参加可能な方は大歓迎です。

③守る会の研修親睦旅行を行います。昨年は韓国仁川に、アッケシソウのルーツを訪ねました。

④アッケシソウ祭は十月に行います。

編集後記

「アッケシソウ通信」第三号をお届けします。執筆ご依頼の皆様方には日々ご多忙の中を、早速に玉稿を賜り、誌上より厚く御礼申し上げます。

只今「守る会」では、来年度の十周年を迎え、市当局のご支援ご指導のもとに、アッケシランドのさらなる充実を願い、案内板の刷新やフラワールードの設置等に取り組んでいます。どうぞご期待下さい。